

2017 年度事業計画

活動 5 年目を迎える本年度、質・量ともにより一層の発展をめざして、以下のおもな事業の実施と、運営事務に取り組んでいきます

1. 食品提供サービス事業

- ① 社会福祉施設及び生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体等への食材提供サービス事業に取り組みます。今年度の目標として食材提供サービス事業実施先、300 団体を目指します。
- ② 各サテライト（拠点）を軸とした地域に根ざした活動を行うとともに、各地の生活困窮者支援団体・相談窓口を通じた個人への食品提供事業の拡大と、各地で実施されている子ども食堂の支援に取り組みます。
- ③ 生活困窮者自立相談窓口等につながらない、困窮者及び困窮世帯の子どもたちの発見（具体的に子ども食堂等と連携）し、「独立行政法人福祉医療機構」の助成金と農林水産省「農村漁村 6 次産業化対策事業のうち食品リサイクル促進等総合対策事業」の補助金を活用し、個別宅配のモデル実施と仕組み作りの検討会に取り組みます。

2. 余剰食材回収サービス事業

- ① 食品関連業者・備蓄品保有企業等から余剰食材回収サービス事業に取り組みます。今年度の目標として余剰食材回収事業実施先、300 社を目指します。
- ② 食品関連業社・備蓄品保有企業（現契約企業）102 社へアンケートをおこない、とりまとめ、引き続いての協力依頼と、さらなる協力要請に取り組みます。
- ③ 個人支援向け食品回収事業として、フードドライブを実施します。具体的に社会福祉協議会への協力依頼、スーパーでの実施依頼なども検討し、また、各種イベントでの実施もおこないます。
- ④ 各サテライトを軸とした地域事業所（大阪府本社）へ協力を呼びかけ、食品回収事業の拡大に努めます。

3. 会員とボランティア

- ① 会員の拡大に取り組みます。2016 年度の会員は、個人正会員 21 名、賛助会員 3 団体、個人 3 名でした。2017 年度は新たな制度応援団「すけっと」の導入をおこない、入会促進に積極的に取り組みます。
- ② ボランティア登録とボランティア活動への参加、拡大に取り組みます。
- ③ 「百聞は一見にしかず」、フードバンク活動は実際に参加することで社会貢献に携わっていることを実感できる活動です。ボランティアとして日常生活で接する機会の少ない施設・団

体をまわり、そこで元気に働く職員・入所者の人たちと接し、「ありがとう」の言葉と「元気」をいただけてきます。そのように互いを支えあうことが体験できるボランティア体験デーを実施してきました。2016年度に引き続き、2017年度も積極的に「ふーどばんくデー」を実施します。

4. 広報活動

- ① ホームページの充実をめざします。日常の活動報告とあわせフードバンクにかかわるさまざまな情報（環境問題や世界の食品ロス削減の取り組みなど）を発信し、活動への理解が深められるように努めます。
- ② 『ふーどばんく OSAKA 通信』の発行に取り組みます。ホームページの充実と合わせて、フードバンクにかかわるさまざまな情報を発信し、活動への理解が深められるように努めます。
- ③ フードバンクにかかわる研修の受け入れや講演活動に取り組みます。この活動は、あわせて自主財源獲得の手段の一つとして位置づけ進めます。
- ④ フェイスブックの活用の充実をめざします。日常の活動をできる限りリアルタイムに発信し、活動への理解が深められるように努めます。

5. その他

- ① 2017年度の事業展開に伴う人材確保として、事務局体制の充実をめざします。
- ② 他のフードバンク団体との連携強化をおこないます。
- ③ 各種助成金などの情報収集を行うとやクラウドファンディングの活用など、自主財源確保のための事業展開を目指します。
- ④ 「独立行政法人福祉医療機構」の助成金、農林水産省「農村漁村 6次産業化対策事業のうち食品リサイクル促進等総合対策事業」の補助金、「住友ゴム CSR 基金」を活用し各サテライトでの周知・啓発のイベント、個別宅配、フードバンク活動の環境の観点からのパンフレットの作成等をおこないます。
- ⑤ 個別宅配の実施に向け各種連携機関等と定期的な検討会を実施します。